

(令和6年度)
自己評価書

園番号	園名
701	奈良市立富雄南こども園

701奈良市立富雄南こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策		
I 教育・保育活動に関するもの	(1) 教育・保育目標/計画	① 教育・保育目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育・保育目標達成の手立てを明確化し、共通理解をする。 「奈良市こども園カリキュラム」に基づき、教育・保育活動を計画、実施する。 目標達成に向けて、教育方針の周知や基本方針に基づいた保護者アンケートや学校評議員などから意見を聴取し、その評価から教育活動を検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標達成に向け、研究主題を「自ら遊びを創り出す子どもの工夫～心を動かす環境構成の工夫～」と設定し、子どもが心を動かす姿を読み取り遊びを創り出すための環境構成の工夫について話し合い取り組んだ。 各種たよりや学級懇談会、個人懇談、掲示物やHP等で、園の教育方針や取組を啓発してきたことで、保護者アンケートによる園評価では、高い評価を得た。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「遊びは学び、学びは遊び」であることを念頭に、子どもが主体的に遊びを創り出す過程を大切に、研究主題に沿った観点で保育実践にあてられたか。 幼児教育の啓発を様々な方法出工夫し、その普及に努めたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者同士が、遊びの重要性を理解し、保育者の役割を認識して幼児教育の普及に貢献する。 業務の効率化を図りながら園内研究会等の研修・研究の時間を確保し、専門職である意識をもって資質向上につなげていきたい。 		
		② 教育・保育計画の作成			B				
		③ 教育課程/全体的な計画の編成			B				
		④ 教育・保育活動の評価			A				
	(2) 教育・保育内容/指導	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画を毎月見直し、各学年の実態に即した計画を立案する。 「自ら遊びを創り出す子どもの工夫～心を動かす環境構成の工夫～」と研究主題を定め、子どもが心を動かす姿を読み取り遊びを創り出すための環境構成の工夫について検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真や動画、実践記録から子どもの発達の姿を読み取り、研究主題の観点から分析することにより、継続的な遊びの重要性や、子ども理解につながった。 保育実践の振り返りを定期的に行うことで、職員間で意見を出し合い、発達の姿に即した指導計画の更新や保育内容の工夫につなげることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの実態に即した活きた指導計画となるよう、PDCAサイクルを行い、保育実践の充実につなげる胃ことができたか。 研究主題に沿って子どもの育ちを見取り、遊びの重要性と保育者の役割を意識して保育実践の改善に努めたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画等の計画と保育実践とのすり合わせを行い、振り返りを通して子どもの発達に即した援助や環境構成を工夫できるようにするとともに、研究主題の観点から年間を通じて保育実践の研究を行い、資質向上につなげていきたい。 		
		② 保育内容の精選			B				
		③ 指導方法の工夫改善			A				
		④ 評価			B				
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが主体となる園行事の方向性を共有し、感動体験を積み重ねられるよう、必要性和と実施方法を見直し、豊かな心を育む活動を立案する。 様々な行事や参観も含め、保護者アンケートを実施し、学校評議員の方からも意見を聴取し評価を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもにとって必要な経験となるよう、目的を共有し、子どもの実態に応じた計画内容を工夫して実施した。 豊かな心を育む活動となるよう、地域の教育力を生かし、人との関わりを通して様々な分野の体験を充実させながら感動体験を積み重ねてきたことで、地域や保護者から高い評価を得た。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 行事のあり方を見直し、子どもに必要な経験となるよう改善を図ることができた。 こども理解・園の取組啓発に向けて取り組んできたことで、保護者アンケートや学校評議員、地域教育協議会から高い評価が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の必要性を考慮しつつ、遊び保障を行うために、次年度に向けて実施回数や時間帯等を見直し、今年度の職員間での反省評価を生かして改善する予定をしている。 		
		② 行事内容の精選			B				
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 人権意識の向上を図るとともに、正しい物の見方や、考え方ができるようになる。 自分を大切に、一人一人が大切な存在であることを意識できるような、取組を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育の指導計画に基づき、保育環境・保育の方法・行事の捉え等、人権教育の視点から見直し、職員一人一人の意識付けにつなげるとともに、不適切保育の観点から職員間で保育のあり方を見直した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画をもとに、一人一人の人権を尊重した保育内容の見直しと改善に努めたか。 一人一人の思いや考えを大切に、自他を大切にすることの子ども育成につなげられたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の人権感覚を磨き、一人一人を大切に保育を心がけていきたい。 互いに認め合い育ち合いができる取り組みを進めていきたい。 		
		② 保育内容の精選			B				
		③ 指導方法の工夫改善			A				
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	<ul style="list-style-type: none"> 園児一人一人の実態を職員間で共有し、いじめや虐待につながるような事象については早期発見・迅速な対応を心がけ、各関係課や小学校等と連携を図る。 プライバシーを守り、保護者が話しやすいような雰囲気や環境づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児や保護者の様子について小さな事柄でも、気になることがあれば全職員で課題解決をしていけるようにするとともに、関係機関とも積極的な情報共有に努めた。 日々の子どもの様子を丁寧に伝え、保護者の思いを受け止めるようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の実態や課題を全職員で共有し、解決に向けて意見を出し合い、みんなで見ていく意識をもてるようにした。 関係機関との連携を図って保護者と情報共有し、問題解決にあてられたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の保育を通して保護者との関係を築き、子どもの実態を共有しながら理解を得て共に同じ方向性をもって進め、子ども理解につなげられるようにする。 		
		② 教育相談・幼児理解			A				
		③ 家庭との連携			B				
		④ 関係諸機関との連携			A				
		⑤ いじめ・児童虐待問題について			・ 対処方針や指導計画が明確である			・ 会議などで検討する。	A
					・ 日頃より実態把握・早期発見に努めている			・ 保護者や子どもの行動や言動を把握する。	A
					・ 各学級の状況を園組織として共有できている			・ 気になることや課題を話題にしやすい雰囲気づくりを行い、全職員で取り組む。	A
					・ 保護者や地域と連携できている			・ 気軽に話し合える雰囲気づくりや信頼関係を築く。	B
		・ 組織的に迅速に対応する体制が整備されている	・ 毎月報告を行うと共に、情報共有を図る。	B					
	(6) 特別支援教育	① 推進体制	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーターと全職員が連携し、支援を要する子どもの発達や育ちを見極め、よりよい方向に進んでいけるようにする。 特別支援コーディネーターが主となり、定期的に支援会議を開き、支援の方向性や支援方法を確認する。 関係機関と連携を図ると共に、保護者の思いを大切にしながら、子ども成長につなげられる体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーターを中心に、随時支援会議を開き、情報共有を行った。 支援を要する園児に対する、支援方法を検討したり、その都度確認したりした。 関係機関との連携を図り、園巡回・園訪問・教育相談など、保護者と思い聞きながら同じ方向を持ち進められるように取り組んだ。 特別な支援を要する子どもだけでなく、すべての園児が生活しやすい環境や援助について、検討 	A	<ul style="list-style-type: none"> 個々の課題を共有し、保護者の思いを大切にしながら、一人一人の実態に即した支援方法を探ってきたか。 特別支援コーディネーターを主にしながら、課題に応じた保育の工夫や、資料作成を計画的に実施することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談に関しては保護者の思いも聞きながら、早期に対応するようになってきたことで、保護者や専門機関、小学校との連携も取ることができた。 保育所等支援訪問事業の活用や、小学校からの園訪問を充実させることができたので、次年度も継続して連携していきたい。 		
② 個々に応じた特別支援教育の内容		A							
③ 指導方法の工夫改善		A							
④ 家庭との連携		B							
⑤ 関係機関との連携		A							

(令和6年度)
自己評価書

園番号	園名
701	奈良市立富雄南こども園

701奈良市立富雄南こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> 園ビジョンについての考えを明らかにし、園児・保護者・職員にとって、安心、安全な園経営を目指す。 円滑な園運営のために、職員の資質向上をねらい、適正な配置と事務分掌の分担を行い、職員の業務改善に取り組む。 職員会議等で園運営について、共通理解を図り、職員相互のコミュニケーションを密にして協働的に教育・保育を進めていく。 保護者アンケートの実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 園ビジョンを作成し、園の基本柱を明確にした。また、全職員で教育目標を達成できるように、共有すると共に、研究主題については全職員で話し合い進めていった。 様々な分野から業務改善に取り組み、削減や改善を行った。 保護者アンケートや学校関係者評価を実施し、課題を明確化して改善へつなげることができた。 また、アンケート回収率が90%以上に達し、約20%増と関心を高めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員がそれぞれの立場で力を発揮し、園の教育・保育を推進することができた。 職員の思いや考えを受け入れながらみんなで課題解決に向けて取り組むことで、様々な方法を探り工夫していくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの立場を生かし合って課題解決に向けて力を合わせてきた。業務改善や削減を行ってきたことでできた時間を有効に活用して、業務の効率化についても一人一人が意識して取り組んでいきたい。
		② 園経営目標・方針			B		
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識			A		
		④ 園務分掌等の連携			B		
		⑤ 会議の運営と位置づけ			A		
		⑥ 会議の結果			B		
		⑦ 職場の人間関係			B		
		⑧ 園評価の実施			A		
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 各クラスの園内研修を年1回、園内実技研修年3回、特別支援研修年5回、その他随時振り返りや各種研修を実施し、専門職としての技術を磨く。 職員が園内研究会、市内市外も含めた各種研修会に参加できるような体制を整え、積極的に職員の資質向上に努める。 研究主題に沿って保育者間で語り合い、子ども理解につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修・研究を進めるにあたってICT環境を整備するとともに年間計画の位置づけを行った。 保育者の資質向上を目指し、研究主題に沿った園内研究会を実施した。自らの保育を振り返ると共に、子どもの育ちや環境構成の工夫について子ども理解につながる意見交流ができた。 園内外の研修やブロック別公開保育、リモート研修や動画配信などにも積極的に参加し、その内容を職員で共有することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿について語り、遊びの中の学びやさらに明日へつながる環境構成や援助について、様々な意見を出し合い、資質向上につながったか。 研究主題の観点に沿った研修・研究を充実させ、研究実践概要の作成にあられたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児教育アドバイザーのリーダーシップのもと、全職員が学びを共有できるように工夫すると共に、職員が自ら研修へ参加する意識が高まるようにする。 園内研修において研究主任を設置し、職員が活発な意見交換をして主体的に学び合う体制を整える。
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施			A		
		③ 園外の研修への積極的参加			A		
		④ 園外研修内容の共有			B		
		⑤ 研修成果の普及			B		
	(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 「安全管理マニュアル」を見直し、全職員で協議し危機管理体制を整える。 避難訓練、防災訓練を計画実施し、地域や保護者との連携を強化する。 子どもや子どもを取り巻く人的・物的環境を見直し、課題改善に努め、対策を講じて一人一人の防災・安全・危機意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「安全管理マニュアル」を年度当初に全職員で確認し合い、共通理解を図るとともに、各自の役割を明確にした。 園内の危険箇所を発見・把握し、市と連携して改善してきた。施設設備・体制強化・地域環境連携整備・PTA連携対策等を行い、防災対策及び安全・危機管理の徹底を行った。 毎月の遊具点検、地域との防災訓練、小学校との合同避難訓練、保護者引き渡し訓練等を実施し、警察や消防署、その他関係機関との連携および地域や保護者の防災意識の向上につながった。また、防災グッズを整え、災害に備えた園の対応を全職員で共通理解した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 安全安心につながる園づくりに努めたか。 安全・危機管理意識、防災意識をもって全職員で共通理解が図れたか。 保護者や地域、その他関係機関と連携して対策を講じることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度準備を進めてきたことを次年度の避難訓練等で実際に活用できるよう計画を進めるとともに、必要な備品を補充する。
		② 防災計画の立案			A		
		③ 危機管理体制の整備			A		
		④ 安全指導の工夫改善			A		
		⑤ 家庭との連携			A		
		⑥ 関係機関との連携			A		
	(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 健康で安全な生活に必要な習慣や態度が身に付くように、家庭との連携を大切にしながら指導に努める。 園医や薬剤師との積極的な連携や健康管理に努める。 食物アレルギー対応児について全職員で周知し、日々確認を行い安全な食の提供を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症に対する注意事項や正しい知識について、全職員で共有すると共に、子ども自身に身につけられるような工夫を実施した。 アレルギー対応については、朝礼で確認すると共に、急な長時間保育を利用することも考え、長時間保育担当者とも情報共有をした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携において、健康管理に努め感染症については、掲示などで知らせ、対策の意識を高められるような働きかけを行ったか。 専門機関や関係課と連携して心身の健康管理に留意できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人への適切な対応や、計画的な健康指導を行う。 保健衛生に関する情報について、引き続き掲示したり、各家庭にコードモンアプリを使用している啓発に努めていく。
		② 心のケアや健康相談の体制の整備			B		
		③ 健康観察、健康管理能力の育成			B		
		④ 関係機関との連携			B		
		⑤ 昼食の衛生管理			A		
	(5) 地域との連携	① 園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> 園の取組や子どもの活動の様子などを掲示やHPに掲載し、園教育への理解や参観していただけない行事等にも関心をもっていただけるようにする。 学校評議員会・運営委員会を開催し、園運営や地域で決める学校予算事業に対してのご意見をいただく。 小学校就学への段差を少しでも滑らかにできるような取組を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域で決める学校予算事業と園行事を兼ね、行事の精選と共に、地域の方に親しみもてる機会になるようにした。また、HPへの掲載や園内の掲示に努めた。 就学に向けて、特別支援CCを介しての情報交換や、運動会ダンスの見学や、校庭に遊びに行ったり駆け足したりなど、子どもにとって小学校を身近に感じ、行くことを楽しみにできる機会となった。 評議員会や運営委員会、地域教育協議会は園運営のついでの方向性について話し合うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域や保護者に園の教育・保育活動を知っていただき、関心を高める工夫を行ったか。 ゲストティーチャーを招聘しての活動については、保育内容に取り入れられるように講師と実施内容を検討した。保護者アンケートからも良い評価をいただけた。 	<ul style="list-style-type: none"> 就学に向けての引継ぎを丁寧に実施し、小学校と連携しより身近に感じ、入学に期待がもてるような取組を実施していきたい。 地域の方との交流はボランティアを呼びかけ、関わる人を増やしながら、地域の中のこども園としての役割を果たしていきたい。
		② 園(保育)公開			B		
		③ 小学校との接続・連携			B		
		④ こ幼保との連携			B		
⑤ P T A ・保護者会の活性化		A					
⑥ 地域教育協議会との連携		A					
⑦ 学校関係者評価の実施		A					
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 四季を感じる環境の工夫や、柔軟な発想で工夫し、子どもの豊かな経験につながる環境づくりを行う。 施設の美化清掃に努め、危険箇所・修理箇所の整備をする。 施設・設備の管理を適切に行い、修繕が必要な物は関係機関に要請する。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣対策をしながら、園庭の水源確保、熱中症対策、遊びの環境の工夫を全職員で行った。 屋根、通路、水路、止水栓、水道蛇口、樹木、雨対策改善、駐輪場、トイレ、倉庫、避難経路、防犯設備等、園施設・設備の課題を報告し、市・地域・保護者と連携しながら改善に向けて取り組んだ。迅速な対応と長年の課題を改善できたことから、地域や保護者から高い評価が得られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもや保護者、その他来園者が安全安心に利用できる園内環境を整えた。 保護者アンケートには、改善点と共に、良い評価もいただけたので、職員で共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き子どもの動線を考慮し、環境を整えたり、安全に使用できるように改善していく。 経年劣化も含め、危険と分かった際は、引き続き迅速な対応をしていく。 	
	② 施設設備の有効利用			A			
	③ 施設設備の管理			A			
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> 公文書の適切な処理と安全な保管場所について、全職員に周知する。 個人情報の取扱いについては、情報セキュリティポリシーののっとり、厳重な管理の徹底を図ると共に、定期的に確認をすることで、意識向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 公文書や個人情報を記載した書類などについては、厳重に取扱い、鍵付き保管庫の利用や、情報持ち出しの禁止など、マニュアルに基づいた管理保護の徹底に努めた。また、常時鍵付き保管庫に格納すると共に、職員以外が不用意に職員室に入らないよう対策を講じた。 情報セキュリティ媒体や、デジカメ管理簿などの記入を徹底した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器の取り扱いについて全職員で再確認し、管理の徹底につなげたか。 個人情報に関するデータや書類の保管や管理の徹底ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が、個人情報保護法に反しないという意識をもって勤務できるように、引き続きのデータ管理や啓発に努めていく。 各クラスのデジカメ配備、各デスクにPC設置等の環境整備を行ったので自己管理意識を高めたい。 	
	② 公文書の作成			B			
	③ 個人情報の管理・保護			A			
	④ 情報の収集			B			
	⑤ 電子媒体の管理			B			